



六反地



窪

川の町から国道56号を北進し、
注の川の太陽光発電パネル群
を過ぎた辺りから六反地である。
ここ六反地は、伊達家・伊予宇和島
藩を抜きには語れない。

関ヶ原の合戦で徳川の世が始まり、
さらに大坂冬の陣の後、仙台藩主・
伊達政宗が伊予宇和島藩を与えられ、
政宗の長男・秀宗が初代藩主となる。
この時に政宗は、伊達家中から選り
すぐりの家臣団を秀宗に付けた。特
に、筆頭家老として送り込んだ山家
清兵衛公頼は、政宗の信頼も厚く、い
わば懐刀でもあった。政宗は秀宗に
対して「清兵衛の言うことは、政宗の
言葉として聞け」と申し渡したとい
う。清兵衛も、政宗からの信頼通り、
宇和島藩のために精力的に働いた。

ところが、もともと折り合いの悪
かった、清兵衛と同じ家臣団の中
いた侍大将・桜田玄蕃元親と対立。
清兵衛は、桜田一派によって殺害さ
れてしまう。(玄蕃本人は、当日は大
坂に滞在していて手を下してはいな
い。また、秀宗による指令であったの
ではないかという説もある)。この時、
清兵衛の次男・三男・四男までも殺
害されたが、妻・スミ(資料によつて
は「澄子」と記載されているものもあ
る)と清兵衛の母親は逃げ延びた。

悲しみにくれる妻・スミは仙台へ
赴き、義父である政宗に事の顛末を報
告した後、最愛の夫と子どもたちの供
養のため宇和島へ向かう。その途上
(二度宇和島まで戻って、再度仙台へ
向かう時であったとする説もある)。

この六反地まで来た時に病に倒れ亡
くなってしまった。この時に、スミを
献身的に介抱し、亡骸を手厚く葬った
地元民が、スミを祀るために「幸霊祠」
を建てた。今もその碑が残っている。

また、宇和島では清兵衛亡き後、清
兵衛の政敵だけにとどまらず、藩の重
要人物までもが事故死や病死が相次ぎ、
また飢饉や災害に度々見舞われた。こ
れらはすべて清兵衛の怨みであるとし
て、藩は、清兵衛の屋敷跡に「和霊神社」
を創建し、清兵衛の霊を慰めた。その後、
六反地にも和霊神社を建てることにな
り、清兵衛とスミを合わせて祀った。今
も国道と旧道の分岐点のすぐそばの、
線路の西に和霊神社、国道の東脇に幸
霊祠があり、そのどちらにも清兵衛と
スミが仲良く祀られている。

さて、町分と郷分合わせて62世帯、
124人が暮らしているここ六反地
には、昭和30年代まで「大綱引き」が
行われていた。地区にとつての一大
イベントで、地区の上と下に分かれ
ての真剣勝負。当日は、出店も出で
大にぎわいであったという。



踏切横の和霊神社と国道脇の幸霊祠



町のうごき

(9月3日)	人口	前月比		出生	死亡	転入	転出	
男	8,189	－6	男	0	12	19	13	
女	9,128	3	女	7	13	21	12	
計	17,317	－3	計	7	25	40	25	
世帯数	8,561	5						(8月中の届出)
窪川地域 12,247人 大正地域 2,424人 十和地域 2,646人								

四万十川の 水質状況

	適正值(mg/l)	9月1日
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	0.369
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.05
化学的酸素要求量	≤ 10.0	測定範囲以下

調査：大正(吾川)
資料：四万十高校自然環境部